

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

しいたけ

おととしの春に菌を植えた原木げんぼくに、秋から冬にかけてしいたけが生えた。もう少し収穫できれば、我が家と長男の家と長女の家で食べる量はまかなえそうだと思うので原木を作ることにした。12月に直径20センチ程度のコナラの木を切り倒しておいた。それを1月末に1メートルほどに胴切りにした。そして、先週、原木を山から運んでしいたけの菌を植えた。電動ドリルで20センチ間隔に穴を開ける。そこに円錐形のコマを打ちつける。一本あたり40個程度のコマを植える。二時間ほどかけて10本の原木ができた。あとは、日陰で雨水のあたる場所に伏せておけばいい。来年の秋には収穫できるだろう。一度原木を作れば数年は収穫できるから、二時間の作業も苦にはならない。

子どものころ、近所のおじちゃんが林業を生業としていた。ヒノキやスギやマツは柱材にする。シイやクヌギは薪にする。そして、コナラはしいたけの原木にする。残った雑木はパルプ工場に運ぶ。伐採した木はすべてが活用され無駄はない。子どものころのしいたけの原木づくりは行程は同じでもずいぶん手間がかかった。手動ドリルをグルグル回して穴をあけ、しいたけの菌がついたオガクズを筒状の道具ですくって穴の中に入れる。そして、ポンチでコナラの樹皮を打ち抜いてふたを作り、それを金槌で打ちつけてふたをする。

作業自体は簡単で子どもでも慣れればできたので、一時間程度手伝うとお駄賃がもらえた。10円か20円だったと思うがすごくうれしかったのを覚えている。みんなでお駄賃を握りしめて1kmほど離れたよろず屋に行っておやつを買った。アイスクャンディーが10円、カップ入りのアイスクリームが20円、キャラメルが10円だった。だから、しいたけの原木づくりの手伝いはうれしい仕事だった。

柱材は輸入材に押され、薪は需要が減り、パルプは海外から純パルプが輸入されるようになった。しいたけも施設内での栽培が主流になっているらしい。おじちゃんが亡くなって、近所の家も林業を止めた。おじちゃんが愛用していた三輪トラックも処分したと聞いた。

少し組み立てを工夫すれば山林は様々な利用価値があるのになと思いがらしいたけの原木を作った。

